

天然力を活用した再造林について ～金沢山ヒノキ育成複層林モデル林～

中部森林管理局 南信森林管理署 森林官 ○奥山 綾菜
森林総合研究所 林業工学研究領域 ○大塚 大
(元 信州大学 農学部)
信州大学 農学部 教授 植木 達人

1. 課題を取り上げた背景

長野県茅野市金沢山国有林のヒノキ林において、公益的機能の発揮を目的とした育成複層林施業（漸伐）を実施しており、昭和58年には天然林施業指標林に、平成11年にはヒノキ育成複層林施業モデル林に設定されました。平成15年からは信州大学農学部と連携し、天然力を活用した更新の可能性について検証しています。

2. 取組の経過

当モデル林においては、ヒノキ更新木（樹高20cm以上）の生育の良い区画で、7万本/haの更新が見られたため、平成28年に一部の区域にて試験的に0.25haの終伐を実施しました。引き続き、令和3年には更新完了している区域は終伐を、更新が不十分な区域については下種伐^{かしぼつ}を実施し、終伐した区域において、伐採による更新木への影響等を調査・検証しました。



写真1：モデル林の更新状況

3. 実行結果と考察

終伐^{しゅうぼう}を実施した結果、伐採前に1.08ha分布していた更新木は0.48ha維持されました。この保全範囲内では下刈までの保育作業が完了している状態であることから、造林作業の省略が可能となり、経費で試算した場合、haあたり約70万円の削減となりました。

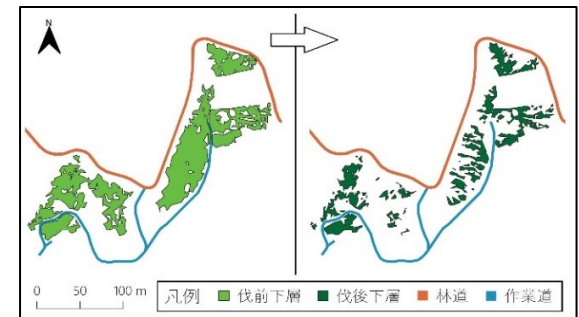


図1：更新木分布状況（伐採前・伐採後）



写真2：伐採前



写真3：伐採後

4. 今後の取り組み

今後は、更新木の生育状況と終伐による更新木への影響について経過観察を行うとともに、隣接林班において、新たに調査プロットを設定し、区画毎に伐採率を変えて間伐を実施し、天然更新の経過及び施業方法について信州大学農学部と連携し調査・検討していきます